

from Gaza

ガザからの声③

戦争は終わっていない

当会の現地職員のハリールさんとワリードさんから、最近のガザと人々の様子を聞きました。

ハリール：外国メディアは停戦といますが、いまだにガザでは戦争は終わっていません。毎日どこかで爆撃があり、人が死んでいます。食料がたくさん入っているという報道もあります。確かに入っているのかもしれませんが、人々が入手できない状況は続いています。ガザでは失業率が高く支援も足りません。200万人がテント生活をしています。天候もひどく、この冬にはかなりの数の人が凍死しました。

戦争中、私たちは「停戦になれば」検問所が開き、物が豊富になり、状況が改善されると期待していました。ところが停戦になったら、状況が良くなるどころか悪くなっています。戦争中、私たちは逃げまどいながら家族を守るのに必死でした。いま私たちは逃げ回らなくてもよいのかもしれないが、瓦礫のなかに暮らしています。ガザ市内で建物が残っているのは、オマル・ムクタル通り（メインストリート）が、シェハダ通りからワヒダ通りと交わる狭い空間だけです。そこにテントもたくさん立てられています。

瓦礫の中には不発弾がどれだけ残されているかわからず、子どもたちには外に出ることを禁じていますか

現在のガザ地図
イエローラインより西側に
210万人が避難生活を続ける
(OCHA)



ら、体を動かす場所もありません。問題が山積みで、状況を語ることに疲れています。

ワリード：私の家族はガザ北部の出身なので、両親は元の場所に戻り、家の瓦礫の横にテントを張って暮らしています。イエローライン（イスラエル軍が、ガザ住民の居住可能な地域を区切った停戦ライン、上の地図を参照）から1キロくらい離れていますが、見渡す限りの建物が破壊されたので、黄色に塗られたブロックが目視できます。我が家の農地には、危険で近づくこともできず、妹の家はイエローラインの向こうなので、おそらく破壊されているでしょうが、見に行くこともできません。電気も水道もなく夜は真っ暗ですが、毎晩ドローンが飛び回っています。恐ろしい音がして、子どもたちは怯えています。両親はこれまでの貯えを2年間の避難生活ですべて失いました。マーケットには何でもありますが、買うことはできません。検問所が開いたと聞くものの、医療搬送の患者さえほとんど出国できていません。



水のないテント村。こうした場所を探して、後日給水車を送っている



風雨で浸水や壊れてしまうテントも多い



みんながハッピーになった冬物衣料配布

希望を失った人々へ支援を

ワリード：ガザは大きな監獄になっていることを外の人々には知ってもらいたいです。誰も出入りできず、市民は何を決めることもできません。これまでは、状況を話すことで世界の人にガザのことを知ってもらえると多くの人が思っていました。何も変わらなかったことに、絶望しているのです。子どもたちの未来はどうなるのか？このさき自分たちを待ち受けているのは何なのか？人々は希望を失っています。厳しい状況の中で、多くの人がインタビューなどを拒否するようになりました。同情ではなく解決が必要とされています。一方で日本からの支援が続いていることは、多くの人に知られています。

ハリール：私自身もまだ若いですが、このまま自分の人生は終わるのか？病気にかかったら薬がないために死んでしまうのか？と思うことがあります。私も同僚たちも、みな子どもと配偶者だけでなく、両親や兄

弟姉妹、姪や甥などの生活を支えています。以前は貧しいながらガザでも多くの人がより良い生活をしようとしてきました。でも現在、多くの人には職がなく収入がないのです。

ラマダンが始まって断食をしながら、重い水を運び、支援や物資を探し回ってガザ市から中部まで15キロも20キロも歩いている人がたくさんいます。

私たちCCPチームは日々状況を見ながら、人々のニーズに応えようとしてきました。また給水・炊き出し・配布・保健医療・子ども支援など多岐にわたる活動をしてきたため、広く知られるようになってきました。冬物衣類の配布はとても好評でした。こうした活動を支えてくださっている日本の皆さん、ありがとうございます。たぶん、日本は、以前に戦争で厳しい体験をしたことがあるから、私たちのことを理解してくれているのじゃないかな。

ワリード：どうか私たちのことを忘れないでください。子どもたちを見捨てないでください。皆さんの支援が人々の生活を少しでも良い方向に変えてくれているのです。(2月23日)



ハリールさんのこれまでの多くのメッセージビデオ(字幕付き)は、当会のYouTubeチャンネル @CCPNGOJapan (左のQRコード)からご覧になれます。



左側建物の壁が残された所にスタッフは住んでいる